

## 令和7年度鳥取県モンゴル中央県青年交流事業

鳥取県立米子東高等学校 2年 竹田 りん

### テーマ 「 異文化体験が自己の価値観に与える影響 」

私は、モンゴル青少年派遣事業に参加し、令和7年6月15日から19日の5日間、モンゴルのゾーンモド市を中心に、現地の高校生との交流などを行いました。

私がこの研修に参加したいと思ったのは、モンゴルの人々との交流を通じて異文化理解を深めたかったからです。以前、私の高校の海外研修に参加した際、現地の人々との交流を深めることで、互いの文化を理解し合うことが、国を超えて互いを尊重し合える関係性を築けることを学びました。その経験から、様々な国に出向き、その国の文化に現地の人々と同じ目線で触れ、ともに体験を重ねることが国際理解のための重要な経験だと考えるようになりました。モンゴルは、同じアジア地域でありながら、普段あまり知る機会がありません。そのため、今回の研修で現地の高校生や遊牧民の方々との交流によって、モンゴルのことを深く理解し、モンゴルの多面的な魅力を肌で感じたいと思いました。それと同時に、私からの積極的な発言を通して、日本の文化や私たちの生活についても彼らに伝えたいという強い願いがありました。こうした背景から、今回のモンゴル研修では、「異文化体験が自己の価値観に与える影響」というテーマを設定しました。見慣れない環境での生活や、異なる文化を持つ人々との出会いが、私自身の当たり前という枠をどのように広げ、新たな視点や価値観をもたらしてくれるのかを探求することが、研修の大きな目的でした。

今回のモンゴル研修では、私が事前に設定したテーマ「異文化体験が自己の価値観に与える影響」を深く掘り下げる多くの機会に恵まれました。特に、ゲルを訪問した際の経験は、私の価値観に大きな影響を与えました。ゲルの中は質素ながらも、厳しい自然環境に適応しながら生活を営むための工夫や知恵が凝縮されていました。ゲルを訪問中、私たちはモンゴルの方々の食文化にも触れることができました。そこで遊牧民の方々が提供してくれたのが、モンゴルの「白い食べ物」と呼ばれるミルクティー、乾燥チーズの「アーロール」、そして牛乳を煮詰めて作る「ウルム」でした。



これらの食べ物は、肉と並ぶ彼らの主食です。モンゴルにおいて白は、潔白、純粹さを表す特別な色であり、彼らが私たちを白い食べ物でもてなしてくれたのは、「白い心で、心からあなたを歓迎します」という温かいメッセージが込められていると伺いました。精神的に満たされた遊牧民の方々の暮らしと、彼らが大切にする「白い食べ物」に込められた深い意味を知った時、私たちが「豊かさ」と呼んでいる物質的なものだけが全てではないこと、そ

して、自然と共に生きる知恵や家族の絆、精神的な充足感が、もう一つの「豊かさ」の形として存在することを肌で感じました。文化や精神性を重んじながら、自分たちにとっての最適な生活様式を確立している様子を見て、私たちにとっての「当たり前」が、世界では多様な形で存在し、それぞれが独自の価値を持っていることを深く学びました。

そして、今回の研修で得られた最も大きな財産は、間違いなく現地の人々との出会いです。ゾーンモド市内の学校でのモンゴル人学生たちとの書道交流では、言葉の壁を乗り越えることの喜びを体験しました。筆で日本語を書く私に彼らは強い興味を示し、逆にモンゴル文字の書き方を熱心に教えてくれました。完璧な言葉がなくても、お互いの文化に対する純粋な好奇心と、分かり合いたいという気持ちが、瞬時に心の距離を縮め、今では毎日連絡を取り合うかけがえのない友人ができました。この経験は、人間としての温かい繋がりは、国籍や言語の違いを超えて築けるという確かな自信を与えてくれました。



また、日本語を学ぶ学生たちがいる日本語学級を訪れた際、遠く離れたモンゴルで、これほど熱心に日本語を学び、日本に興味を持ってくれている同世代がいることに胸が熱くなりました。彼らが「なぜ日本語を学ぶのか」という問いに対し、日本の文化や アニメ、技術への深い関心を語る姿は、私たち日本人が当たり前だと思っていることの中に、彼らにとっての大きな魅力や価値があることを教えてくれました。これは、自分の文化を外から見る視点を与えてくれる貴重な経験でした。



そして、特に印象深いのは、ホームステイ先の家族との温かな時間です。モンゴルの伝統料理であり、熱した石を使って豪快に肉と野菜を蒸し焼きにしてつくるホルホグをホストファミリーと食べた経験は、私にとって忘れられない記憶です。出来立てのホルホグを家族みんな

なで囲んだ食卓は、言葉を超えた温かい絆を感じさせてくれました。彼らが私を本当の家族のように迎え入れてくれたことで、異文化の中でこれほど温かい人間関係を築けることに深い喜びを感じ、私の人間関係に対する視野を大きく広げました。見知らぬ土地で心から信頼し合える関係が築けることの喜びと、その温かさがいかに人生を豊かにするかを深く実感しました。



今回のモンゴル研修では、私の今後の人生において計り知れない影響を与える学びと経験となりました。特に、「異文化体験が自己の価値観に与える影響」というテーマを通して得た多様な価値観の存在と心と心で通じ合えることの重要性は、将来、社会で活躍していく上で不可欠な視点だと確信しています。この学びを活かし、私は将来、多様な文化が共存し、互いを尊重し合える社会の実現に貢献していきたいと強く願っています。そのためには、まず私自身が、あらゆる事象を多角的に捉え、表面的な情報だけでなく、その背景にある文化や人々の価値観を理解しようと努める姿勢を常に持ち続けることが重要だと考えています。今後は、学校内での異文化交流イベントへの積極的な参加や、地域社会での多文化共生に関するボランティア活動を通じて、実践的な異文化コミュニケーション能力と理解を深めていきたいです。また、将来は国際協力や国際関係の分野に興味があります。今回のモンゴルでの経験は、異なる文化圏での生活や人々と協働することへの強い意欲を私に与えてくれました。言語の壁や文化の違いを恐れず、私がモンゴルで学んだ心と心で向き合う姿勢を大切にしながら、世界各地の人々と共に社会課題に取り組み、互いの違いを強みとして活かせる、より良いグローバル社会の構築に貢献していきたいと強く願っています。このモンゴルでの経験は、私にとってかけがえのない宝物です。今回の研修で得られた、異文化理解の深さ、心の通い合いの尊さ、そして多様な豊かさの存在という学びは、私に多くの新しい視点を与えてくれました。この貴重な経験を活かし、今後の人生においてより積極的に世界と関わり、誰もが互いを尊重し合える未来の実現に向けて、私なりの貢献をしていきたいと思っています。

